

当院維持透析患者における 下肢閉塞性動脈硬化症に関する評価



医療法人社団 仁誠会 熊本第一クリニック

目的

当院透析患者の閉塞性動脈硬化症(ASO)の現状を把握するため足関節上腕血圧比(ABPI)を測定しASOに対するABPIの有用性を検討する

対象

当院透析患者114名(男性62名 女性52名)

慢性糸球体腎炎・・・46名

糖尿病性腎症・・・32名

腎硬化症・・・11名

その他・・・14名

不明・・・11名

期間 H17年7月～H19年5月

方法

(1) アンケート実施(5項目)

- ・足がしびれたり、冷たい感じがする
- ・しばらく歩くとふくらはぎや太ももが痛んだり
つるような感じがして長く歩けない
- ・じっとしていても足が痛いことがある
- ・夜、足が痛くて眠れないことがある
- ・足の色が紫色になっていたり
足に治りにくい傷がある

(2) ABPI (ankle brachial pressure index)

Vasera VS-1000 (フクダ電子) を使用

(3) 下肢MRA検査および造影CT検査



結果 1

自覚症状とABPIの関係について

	自覚症状あり	自覚症状なし
ABPI 0.8未満	9名(9%)	2名(2%)
ABPI 0.8以上	44名(45%)	43名(44%)

結果 2

ABPI 0.8未満の患者・・・114名中18名(16%)

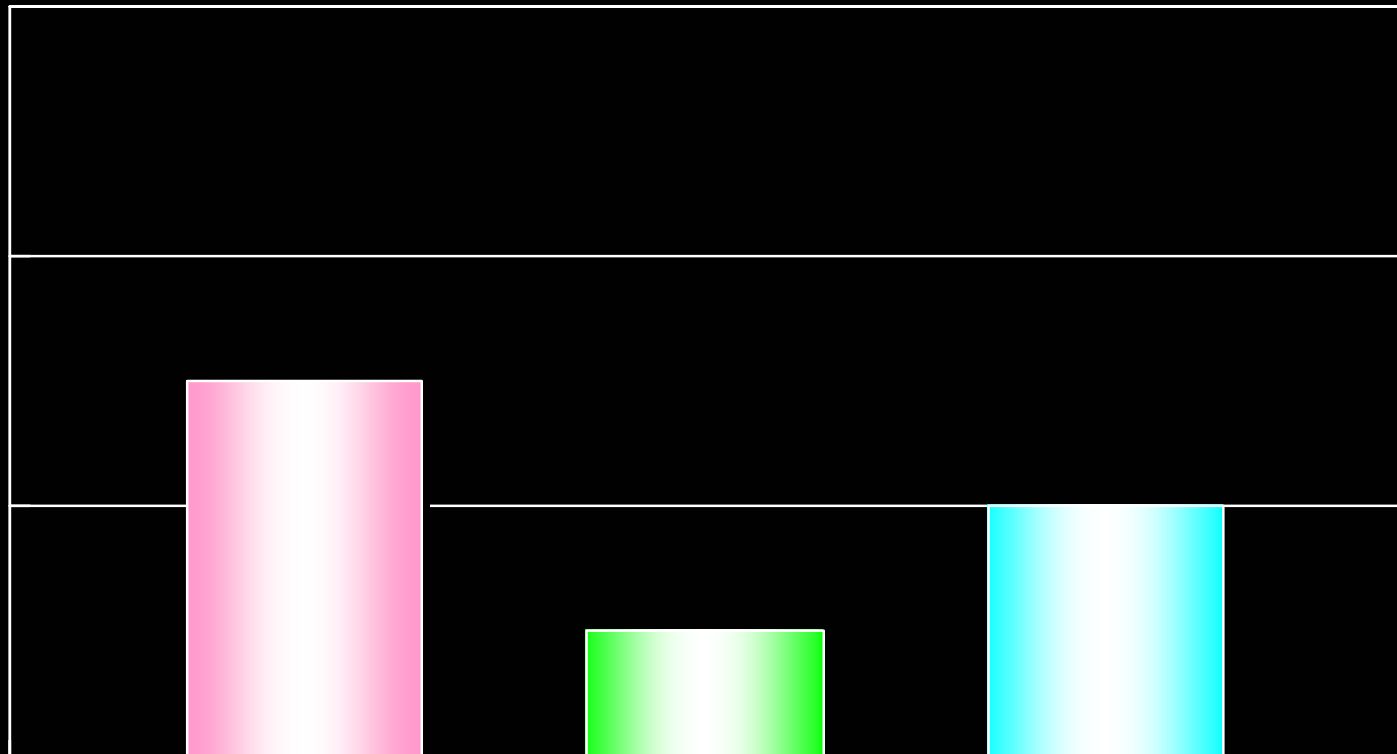
(人)

18

12

6

0



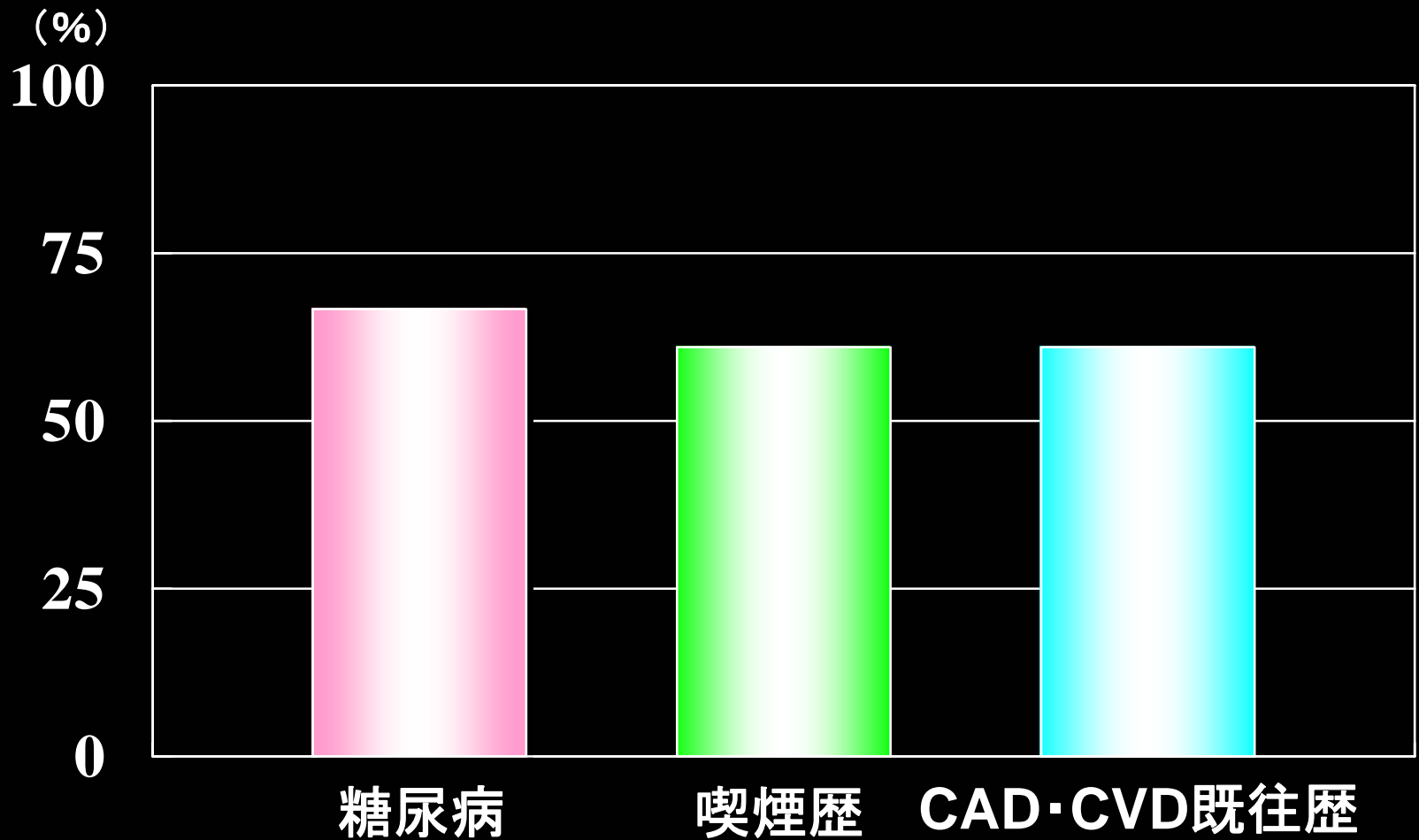
両側性

右側のみ

左側のみ

結果 3

ABPI 0.8未満患者18名の危険因子所持率



結果 4

ABPI 0.8未満患者とプラークスコア(PS)の関係

PS10.1～(重度)・・・8名(44%)

PS5.1～10.0(中程度)・・・6名(33%)

PS1.1～5.0(軽度)・・・2名(11%)

PS0(病変なし)・・・1名(6%)

不明・・・1名

(%)

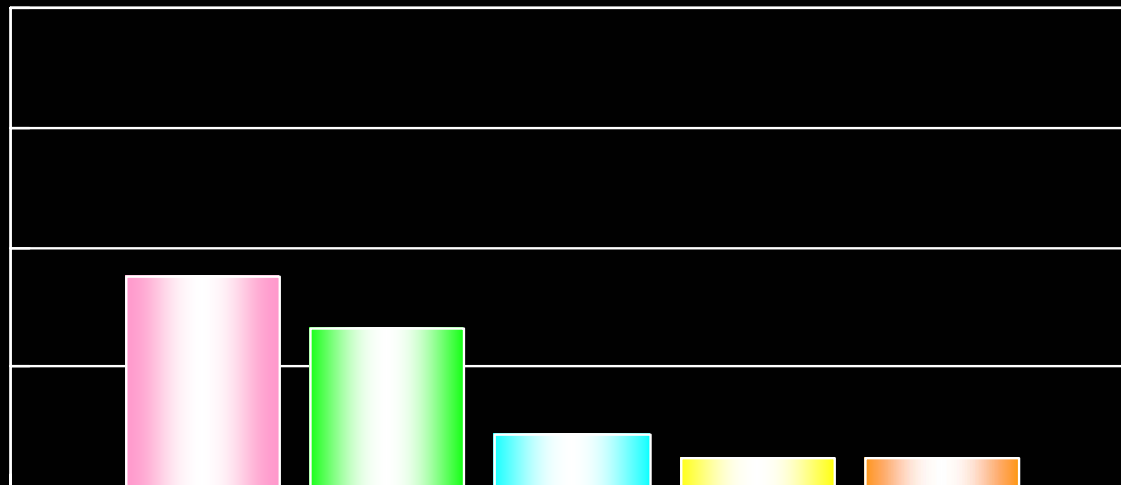
100

75

50

25

0



重度

中程度

軽度

病変なし

不明

結果 5

下肢MRAおよび造影CT検査所見について

	ABPI 0.8未満 15名	自覚症状のみ 3名
狭窄・閉塞あり	13名 (87%)	0名 (0%)
狭窄・閉塞なし	2名 (13%)	3名 (100%)

症 例 1

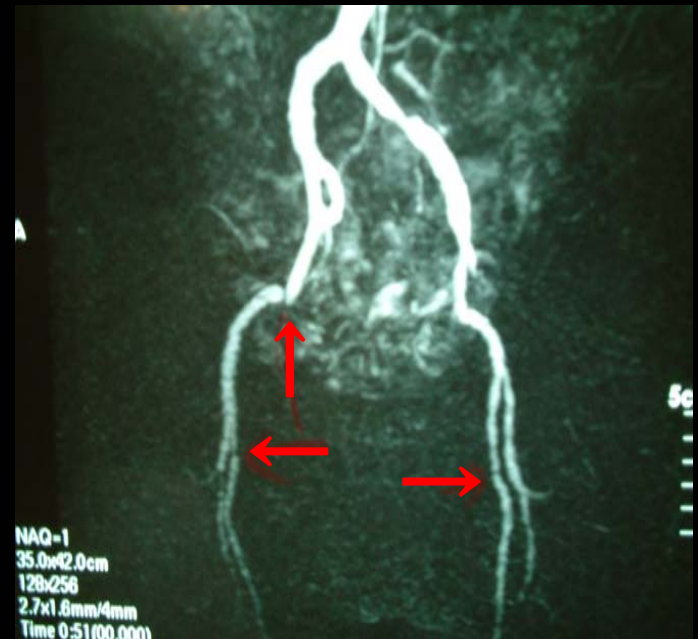
59歲 男性
糖尿病歷30年
透析歷2年
原疾患 糖尿病性腎症

← 狭窄部位



症 例 2

88歲 女性
糖尿病歷33年
透析歷11年
原疾患 糖尿病性腎症



考 察

1. 透析患者の場合、自覚症状のみからASOを判断するのは困難である
2. ABPIとPSとの関連性は高く、ABPI低値の患者は全身の動脈硬化も進行している
3. ABPIは自覚症状以上に下肢MRAおよび造影CT所見を反映しており、その有用性は高い

結 語

定期的なABPI測定により

ASOを早期に発見し

適切な治療を行うことで

患者のQOL向上・維持を目指したい